



第10回 四万十つるの里祭り



ツルの写真等パネル展



小学生のお米販売



四万十の野草がゆのプレゼント



越冬したマナヅル

平成30年12月1日(土)、毎年恒例の「四万十つるの里祭り」が、四万十市立東中筋中学校で開催されました。この取り組みは、ツル類が飛来する秋～冬に四万十つるの里づくりの会により開催され、今年で10回目となります。

中村河川国道事務所は第1回目からお祭りに協力し、「四万十川自然再生事業(ツルの里づくり)」を紹介するパネルの展示、土石流や豪雨を体験できるフースの運営などを行っています。

この日は天候にも恵まれ、約1,000人の親子連れなどが会場を訪れお祭りを満喫しました。なかでも四万十市立東中筋小学校の5年生が地元農家と共に作ったもち米を販売するコーナーには長蛇の列ができ、子どもたちは手描きのツルのイラスト入りポスターで「ツルの里」をPRしていました。また、四万十川自然再生協議会のメンバーは、四万十川河畔で摘んだ野草と、四万十つるの里づくりの会が越冬地整備を行っている江ノ村で穫れたお米を使用した野草がゆを作り、来場者に振舞っていました。イベントの合間には、十ベツルとマナヅルが中筋川流域に飛来していることや、ツルは警戒心が強いので遠くから見守ってほしいといった啓発アナウンスがしばしば流れ、ツルの保護を呼びかけていました。

なお、マナヅル7羽は、平成31年1月18日現在、四万十市に滞在しており、約40年ぶりの2年連続でのツル類の越冬となりました。これも、四万十つるの里づくりの会の皆様のこうした取り組みと、連携・協働の成果だと思えます。

渡川流域を対象としたタイムラインを策定

渡川流域を対象としたタイムラインの検討会は全国12河川(四国では渡川のみ)のリーディングプロジェクトとして、平成27年12月、行政、ライフライン関係機関、交通機関、要配慮者施設など、13機関が参画して発足し、これまでの5回に上る討議の総括として第6回検討会を平成30年11月26日(月)に開催しました。

タイムラインとは、災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況をあらかじめ想定し共有した上で「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画です。

四万十市では特別警報級の台風が襲来した場合、浸水深は5～10mになると想定されており、検討会では広域的な避難の必要性を確認し、これまで要配慮者施設の避難訓練などの実績を基にタイムラインの再検証を実施してきました。

立ち上げから3年が経過し、この度一定の成果が見られたことから、第6回検討会をもって策定とし、平成31年度より運用を開始していきます。

平成30年は四国でも豪雨災害が発生しました。自分や御家族の命を守るためにも「この時何をするべきか」を考え、行動につなげるために役立てていただきたいと思います。

これまでのタイムライン検討会の経過は下記アドレスよりご覧いただけます。

<http://www.skr.mlit.go.jp/nakamura/ema-time.html>



四万十川に関するお気付きの点や、お問い合わせは中村河川国道事務所 計画課までお願いします。

TEL0880-34-7301

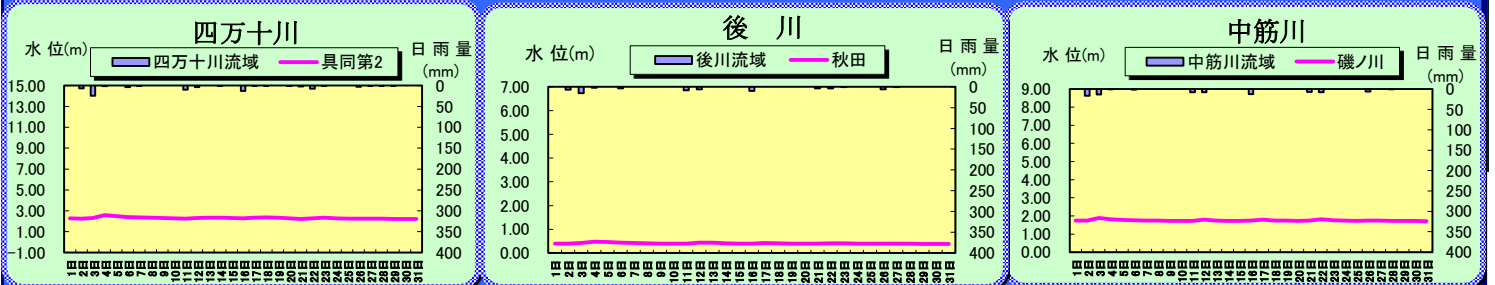
「四万十川ニュース」は、中村河川国道事務所HPにも掲載しています。

<http://www.skr.mlit.go.jp/nakamura/index.html>

12月の四万十川の様子



雨量・水位データ



流域平均雨量(12月)



12月の四万十川流域平均雨量78mmは平年の0.7倍程度の雨量です。
 なお、過去10年間の平均雨量は109mmです。
 ※四万十川流域平均雨量について、四万十川流域の雨量観測所(18箇所)が流域に占める支配面積の比率により算出した雨量です。
 ※測定値は全て速報値です。

四万十川の水位・雨量について

- ・水位・雨量情報電話サービス
 (0880-34-7321:3回線)
- ・PCサイト「川の防災情報」
<http://www.river.go.jp/>
- ・携帯サイト「川の防災情報」
<http://i.river.go.jp>

